

平成十一年度

# 漁協運動功労者表彰式



川内町漁協組合長

田中 鐵 男

平成十一年度（第十四回）漁協運動功労者表彰式が、去る十一月十九日、東京・虎ノ門パストラルにおいて行われた。

はじめに、植村正治全漁連会長が主催者挨拶を述べ、続いて、玉沢徳一郎農林水産大臣が祝辞を述べた。

続いて、表彰式に移り、植村全漁連会長から受賞者一人ひとりに漁協運動功労章、記章、賞状が手渡された。

この功労章は、漁協運動のりー

ダーとして長年活動した功績を顕彰するため、昭和六十一年に制定され、今年度本県からは、田中鐵男川内町漁協組合長（県信漁連理事）が受章されました。

## 功績の内容

昭和二十年、小型定置網・桁網・採海藻等の漁船漁業に従事、漁業協同組合の組合員として組合の発展に寄与した。

その後、昭和四十二年川内町漁業協同組合理事、昭和六十三年代表理事組合長に就任し、優れた指導力と統率力を遺憾なく発揮し、長年にわたり組合事業の発展に努めた。また、青森県信用漁業協同組合連合理事をはじめ、水産団体等の各々の要職にあつて本県漁業の振興と発展に尽力した。

## ■地域漁業の振興発展に関する功績

昭和四十二年、ほたてがいの養殖事業が軌道に乗り始め、昭和四十五年からは組合直営方式の一貫した体制に取り組み、組合員の協同意識の高揚と養殖技術の確立を図った。また、平成元年、これまでの養殖ほたてがいが、小型化・歩留りの低下により販売額が下がり、組合経営を大きく圧迫していると考え地まきほたてがいの生産体制を確立するため、漁場の調査・管理を開始し海底清掃、漁場の拡大を図ることにより組合事業の整備拡充に尽力した功績は大なるものがある。さらに、販売・競争力強化のため、稚貝の適正放流の徹底及び潜水採捕を行うことにより、漁家経営の安定と所得の向上に努めた。

また、ヒトデの異常発生によりほたてがいの被害が年々増加したため平成七年度からヒトデ駆除のため、漁具を製作し食害防止に努めた。

昭和六十二年、ふ化場を建設しさけのふ化及び稚魚放流を積極的に推進し資源の増大と回帰率の向上に寄与した。

従来から実施している投石事業による漁場の造成により、ナマコ養殖は現在、年間約五十トンの水揚げとなっており、同氏の「資源管理型漁業」の熱心な取り組みが実を結んだと言える。

## ■漁業振興に関する功績

平成二年、青森県信用漁業協同組合連合会理事に就任、金融の自由化に対応するには、信用事業の全国漁協オンライン化が必要との認識に立ち、出身漁協の開設を手本に県下漁協への普及に日夜奔走した。

青森県ほたて流通振興協会理事として、外国産ほたてがいの輸入増による価格下落に対処するため、販売促進キャンペーン等を行い販売開拓と消費拡大に大いに尽力した。

水産系統団体等、数々の要職にあつて本県漁業の振興と発展に大きく貢献した。